

## 神性・仏性の内在は、完全無欠の保証か

記憶・体験の連続に立つ自己の「習慣」という呪縛＝履歴効果とは

### 「習い性となる」は、自分の「肉体」を取り巻く環境の影響

「人」と「人や物との関係(環境)」との関係  
個人の实体とは、肉体・五感を基盤とした、意識・記憶の連続であるとしています。

そして、人は、多くの人や物に囲まれて、その中で、人や物と関わりながら、生きています。

それぞれの人は、自分の肉体・五感を基盤として、自分が自分であるという意識を持っています。ものの感じ方や考え方・行動様式は、自分の肉体の外から与えられた、刺激・情報から形作られたものです。

たとえば、食事の作法として、日本列島に住む多くの人は、箸を使います。インドでは、手を使います。アメリカでは、ナイフやフォークを使います。

赤ん坊がものを食べる始まりは、他者から口へ運んでもらう形でしょうが、少し大きくなると、手でつかんで食べるようになります。もう少し大きくなると、箸やらスプーンやらを使うようになります。

長い学習の末、それが習い性となり、それ以外の方での食事作法による食事が考えられなくなりま

す。これを、「生活履歴効果」といいます。

「履歴」は履歴書の履歴です。これまでの行動の積み上げ、あるいは外部から受けてきた影響の積み上げのことです。

「効果」とは、過去に繰り返された行動や外部から受けた影響が、現在の行動の選択肢を決めることです。単純化して、説明すると、洋食屋でハンバーグ定食を注文した人が、食べる段になって、ナイフやフォークが手元にあるにもかかわらず、「オネチヤン、箸ちょうだい」というのは、箸で食事するという生活の履歴効果であるといえます。

「生活履歴効果」は、習い性となって身についた習慣の別名であるといえます。

ラッキョやタマネギを思い浮かべてください。人は、「神性・仏性」の芯の周りに生活パターン(人ものとの関わり方の変化)によって、一枚一枚と外皮を重ねて、年をとっていきます。芯の共通性・普遍性と外皮の形成過程の唯一性(人それぞれの体験の違い)は、善悪正否を超えた、差異です。

今の社会での多数派の生活パターンは、野宿や夜間

宿所、炊き出し中心の生活パターンでないこと明らかです。野宿・夜間宿所、炊き出し利用の繰り返しは、自己の行動の繰り返しですから、習性となり、生活履歴効果をもたらします。タマネギの皮が一枚増えていることになります。世の多数派の生活パターンと異なる生活から生じる履歴効果は、世の多数派と異なる行動パターンを身につけていることを意味します。世の多数派と異なる行動パターンを身につけていること善悪正否をいつているわけではありません。単なる差異です。しかし、適切・不適切は、考えられなければなりません。野宿・夜間宿所生活から、アパート・マンション生活に移行するに当たっては、自分の身におこった生活履歴効果を点検しておくことも必要だと思われれます。野宿・夜間宿所生活では適切であった行動、物言いも、アパート・マンション生活では不適切になるということも考えられます。生活保護を申請すると、約2週間は、施設で生活することになります。その期間を、ウツトオシイと考えるのではなく、新しい、あるいは久しぶりの生活パターンに備えて、生活履歴効果を点検する機会と考えるはどうでしょうか？

生活保護は、無差別平等、困窮の事実に基づいて、誰でも（永住権を持つ外国人を含む）活用することが出来ます。65歳以上でなければ、あるいは病気でなければ受けられない、というのはウソです。

以下は言葉の説明のために

らい-しょう【習性】ナラヒヤ（「習性せいとなる」から）その人にしみついた習慣的な行動様式。習性（しゅうせい）。○慣性（せい）と成る[書経太甲上] 習慣はついには第二の性質となる。

問題は原因があつて起こる、というのが常識ですが、では問題の原因を処理すれば問題は解決するかとさえもそうとも限りません。

ヒステリシス効果「履歴効果」は、“問題状況は原因とそれが発生してからこれまでの「履歴」によつてもたらされたものであり、現時点で原因を処理しても「現状」の解決にはならない”という「効果」を意味しています。

景気が最も悪かつた就職氷河期に学校を出て労働市場に入った年代層と、その後、景気拡大が続いて就職状況が改善してから労働市場に参入した年代層では、就職氷河期に労働市場に参入した年齢層において、フリーター経験を持ちそこからなかなか抜けられないという人が多いかもしれない。参入時の影響が後にも残っているという履歴効果（ヒステリシス効果）である。この効果が大きいのであれば、今の若年非正規雇用者の加齢に伴い中高年フリーターが増加していくだろう。